

第3回やすらぎ堤デザイン検討委員会資料  
平成27年7月28日(火)

# 設備等の整備に係る基本方針

# 1. 各施設の現状と課題

## ■護岸

○護岸タイプは、矢板形式の直立護岸およびコンクリートブロック階段護岸に大別される。

### 【矢板護岸】

○主に水深の深い場所で採用されている。

○堤防上や高水敷からの眺望では、矢板本体や天端工は見えなため、景観的な問題は感じられない。また対岸のまでの距離が遠く、矢板面も含め、護岸の細部は目立ちにくい。

○橋梁から眺望すると、天端工のつくる人工的なラインが目立ちやすく、また長い区間連続すると非常に単調な印象を与えるため、「川らしさ」を阻害する要因になると考えられる。

○転落防止の生垣柵が併せて設置されている区間が多く、水際に接近することはできない。



■天端工の人工的なラインが目立ちやすい



■堤防や高水敷から眺望する場合、護岸は特に気にならない

# 1. 各施設の現状と課題

## 【階段護岸】

- 主に水深の浅い場所で採用されているが、水面下の矢板基礎と組み合わせ深い場所で整備されている区間も多い。
- ブロックの目地等に植物が侵入している箇所が多く、矢板護岸に比べると人工物の硬いイメージは和らげられている。一方で雑草の繁茂が荒廃した印象を与えており、水辺でくつろげるような気持ちの良い空間とはなりにくい状況である。
- また比較的長い延長にわたって連続的に整備されている区間が多く、単調な水辺景観が生じやすい。
- 冠水部は、泥の堆積や藻類の付着があるため滑りやすくなっており、水に触れて楽しむ場としては課題がある。



■ 植物の繁茂がコンクリート構造物の人工的な印象を和らげているが、長い区間連続すると水際の単調さが気になる。



■ 目地に侵入した雑草が、荒廃した印象を与えており、居心地の良い水辺空間とはなりにくい。

# 1. 各施設の現状と課題

## 【その他の護岸タイプ】



■板柵工によるマコモの生育場の創出。自然な水際形状の保全という観点では効果は不十分。



■自然石張の緩勾配護岸。肩の部分がラウンディングされており柔らかい印象となっている。階段ブロックに比較して構造物としての風格がある。



■入江タイプの護岸。安全な水遊び場が提供されているが、人工的な水辺の印象が強い。



■矢板護岸前面が繋船場として利用されている。古タイヤの防舷材や錯綜するロープ等が、荒廃した雰囲気を生み出しやすい。

# 1. 各施設の現状と課題

## ■ 転落防止・進入防止機能

○水深の深い一部の区間では、転落及び侵入防止の柵施設が設置されているが、複数の形状が存在し、統一的なデザインルールはない。

### 【水深の深い矢板護岸背後】

#### → 転落防止柵

- ・萬代橋上流の左右岸(H1,100横棧)
- ・関屋下水道橋下流の左岸(H1,100縦棧)
- ・船着場、樋門周辺など

#### → 生垣(進入防止柵)

- ・昭和大橋上下流の右岸(H800)
- ・繋船護岸の背後など(H800)

### 【階段護岸、入江の背後等】

#### → 柵類の設置なし



■ 萬代橋上流の左右岸は横棧の転落防止柵で統一されている。整然としているが、どうしても水辺空間が分断されたイメージが生じやすい。



■ 生垣は多くの区間で採用されている。転落防止柵と比較すると、より自然で柔らかい雰囲気演出できるが、植物の適切な維持管理が課題である。



■ 柵のない区間は、開放的で雄大な「やすらぎ堤ならではの景観」が感じられる。

# 1. 各施設の現状と課題



■最上流左岸の転落防止柵(縦棧)。萬代橋周辺とは異なるデザインとなっている。



■樋門放水口の転落防止柵(左岸)。花火や草花のモチーフがやや唐突な印象がある。



■屈折する樋門放水口の転落防止柵(右岸)。安全確保の機能が優先されデザインに十分配慮が行き届かないことが多い。



■階段護岸上から流軸方向の眺望。柵類の有り無しで水辺の開放感がかなり異なる。



■生垣はH800程度で、シャリンバイ・トベラなどの常緑樹が主体。視界を遮る鬱陶しさはそれほど感じられない。むしろ「見切り」の効果で、程よい奥行き感がある。



■一部で植物の枯損が生じ、木柵がむき出しになっている箇所がある。

# 1. 各施設の現状と課題

## ■ 舗装

○ゴムチップ舗装、アスファルト舗装が主で、萬代橋橋詰等の拠点性が高い場所は自然石舗装となっている。全般に複数の工法・色彩が混在しており、統一的なデザインルールはない。。



■ 萬代橋橋詰付近の自然石ピンコロ舗装



■ 堤防天端のゴムチップ舗装(左岸7.6km付近)



■ 萬代橋上流(右岸)の自然石張り舗装



■ 施工年次の違いにより、舗装材や色彩がツギハギ状になっている箇所もある。



■ 縁石ブロックが目立ちやすく、園路の不自然なカーブが際立って見える。



■ 縁石を植物が覆い、微妙な凹凸を持ったソフトなエッジになっている。園路線形も、不要なカーブは導入せずシンプルな方が美しく見える。

# 1. 各施設の現状と課題

## ■休憩・利便施設

トイレや四阿、ベンチ等の利便施設は、緑地内の各所に配置されている。比較的シンプルで奇抜なデザインのものはないが、複数のタイプが混在しており、統一的なデザインルールはない。

### 【四 阿】



■シンプルな擬石四柱タイプ。左右岸にある。木柱のものも含め最も数が多い。

■左岸のアーチ屋根タイプ。障子風の衝立がある。屋根の形状はイメージを左右しやすい。

■木製のものは経年的な腐朽が目立つものがある。

# 1. 各施設の現状と課題

## 【トイレ】



■トイレのデザインは各所ですべて異なっている。遮蔽植栽による目隠し、足元の修景が望まれる。



■左端と同ユニットであるが、外壁仕上げの異なるタイプ。



■オリジナルタイプのトイレも複数棟設置されている。

## 【ベンチ】



■複数のデザインが混在しているが、背付きタイプが最も多くなっている。背付きタイプは、設置場所によっては視線を遮ることになりやすく、開放的な眺めの確保という点で課題がある。



■座面の素材は、木製、人工木が主として用いられており、統一感がある。



■木製ベンチは、経年劣化による腐朽が見られるものもある。

# 1. 各施設の現状と課題

## ■案内サイン・看板 等

○案内誘導サインは、現状ではそれほど多く設置されておらず、対象区間を含む周辺地域の案内誘導のシステムとしては整備されていない。

○案内サインや解説サイン、注意喚起の看板等の表示系の施設のデザインは、管理者が異なることもあってそれぞれがバラバラとなっており、施設デザインの統一は図られていない。



■案内サインや解説板等が点在するが、デザインは統一されていない



■管理者が異なる注意喚起等の仮設看板類は、その都度の判断で施設形状やデザインが決まるため、不統一となりやすい

# 1. 各施設の現状と課題

## ■照明施設

○整備年次等によって複数のタイプが混在しているが、全般にシンプルなものが多く目立ちにくい。



■照明柱のデザインは、場所によって異なるが、奇抜なモチーフを導入したものは特になくシンプルで目立ちにくい。

## ■その他（自動販売機 等）

○利便施設、照明施設等の付帯施設のデザインは、全てが統一されておらず、区間によってバラバラなデザインとなっている。



■数カ所に設置されている自動販売機は、それぞれの飲料ブランドのロゴやイメージカラーで塗装されている

## 2. 各施設のデザインに係る基本的考え方

### ○デザインの方向性

港町・新潟の発展を支えた象徴的な存在である萬代橋の景観を尊重する。このため、風格ある橋の佇まいと相反するデザインの導入は極力避けることを念頭に置く。

なお萬代橋のモチーフを安易に模倣することは、本物の価値(真正性)を薄めることになりかねないので十分に注意を払う必要がある。

### ○各施設の形状

過度な装飾は行わず自己主張の無いシンプルなデザインを基本としつつ、対象区間の同一施設とのデザインの統一性、異なる施設との調和を考慮する。

### ○素 材

施設の構造材の質感・素材感を重視しつつ、施設毎に利用者の快適性等に配慮して木材や自然石等の自然素材を組み込むことを念頭に置く。

また耐候性・耐潮性に配慮した素材を選定し、ライフサイクルコストを低減する。

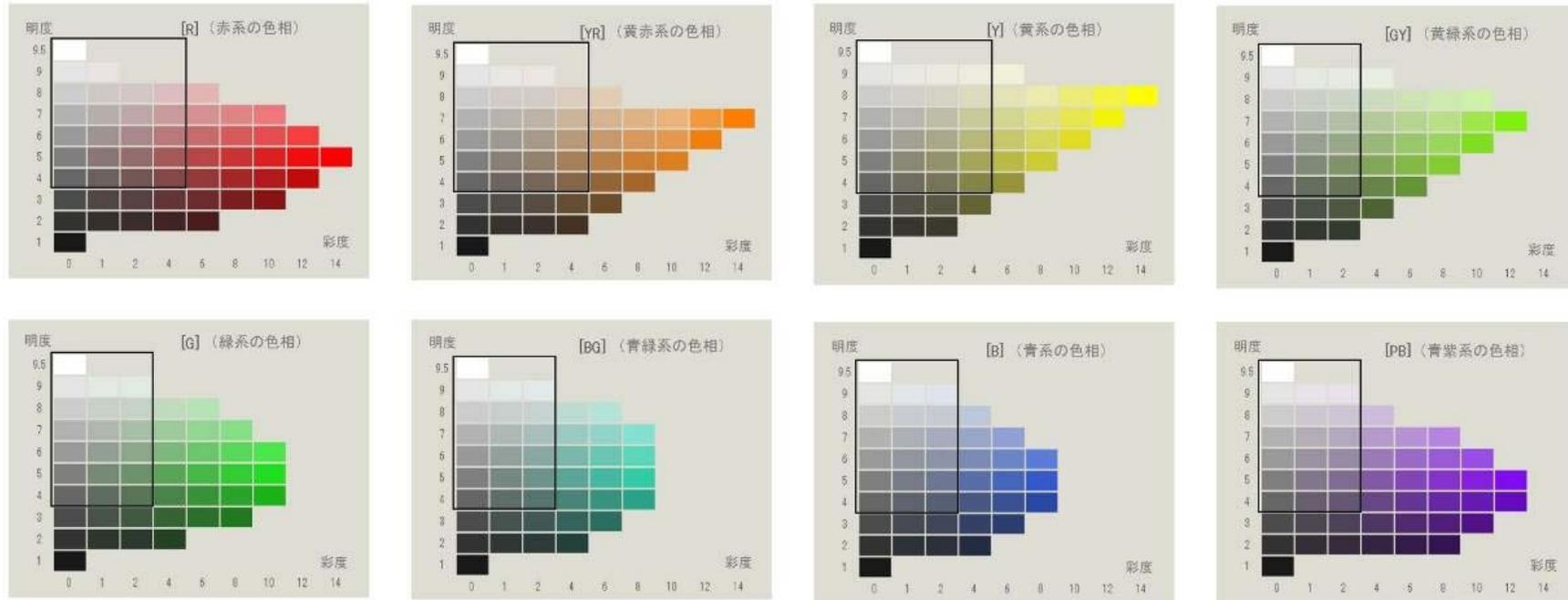
やすらぎ堤の開放的で自然的な環境の中で、「川らしさ」を基調とし  
控えめで目立たないデザインで統一することを基本とする

・新規の施設整備ではこの基本的考え方に則るとともに、既存施設の更新にあたっては、区間全体の調和(最終ゴール)を見据え、適切な整備を行うものとする。

## 2. 各施設のデザインに係る基本的考え方

### ○色彩

「新潟市景観計画」に示された建築物の基調色を基本としつつ、各施設の特徴や素材、対象区間の付帯施設全体としての統一性等を踏まえながら、個別に検討を行なう。



※新潟市景観計画(H19.2) 一般区域における建築物の基調色

○参考)新潟市景観計画<H19.2>一般区域における建築物の基調色について

#### 景観形成基準

周辺の環境や建築物との調和を図り、圧迫感や突出感を与えないようにするため、外観の基調色は、マンセル値によるものとし、彩度6以下とすること。

また、明度4以上となるよう努めること。さらに、色相がR, YR, Yの場合は彩度4以下、色相がGY、G、BG、B、PB、P、RPの場合は彩度2以下となるよう努めること。

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ① 転落防止・進入防止機能

##### 【矢板護岸区間】

##### ■ 萬代橋上流の左右岸

○既設の施工延長が長く、下流港湾緑地との統一も必要な萬代橋上流左右岸は、現行の**横棧タイプ転落防止柵**(H=1,100)を基本とする。



##### ■ 船着場、樋門等の周辺

○乗越え・転落に対する安全性を確保するため、**縦棧タイプの転落防止柵**(H=1,100)を基本とする。



##### ■ その他矢板護岸区間

○水際の分断感を緩和できるよう、**生垣による進入防止柵**を採用する(H=800)



##### 【階段護岸、石積護岸区間】

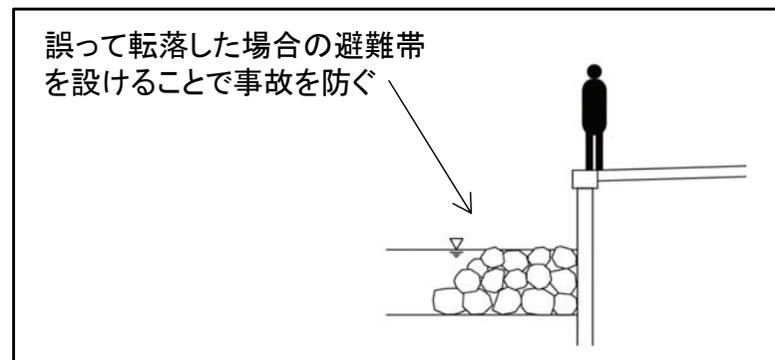
○水面との高低差が低い水際部については、「やすらぎ堤に相応しい水辺空間の一体感」を確保できるよう、**原則として柵は設置しない**。

○柵以外の方法による転落防止機能や危険喚起を促す(護岸下に捨石を配置し、川への直接的な転落を防止する等)

色の名称	標準マンセル値 ※	イメージ
ダークブラウン 【こげ茶】	10YR 2.0/1.0 程度	
グレーベージュ 【薄灰茶色】	10YR 6.0/1.0 程度	
ダークグレー 【濃灰色】	10YR 3.0/0.2 程度	
オフホワイト 【乳白色】	10YR 8.5/0.5 程度	

基本色

出典: 景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン



■ 捨石による避難帯の確保

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ② 舗装

##### ■天端舗装・タイプ

○拠点等の特別な性格を持つ区間以外は、歩行やランニング時の快適性が高く、整備済み区間の多くで採用されている「**ゴムチップ舗装**」を基本とする。

##### ■天端舗装・色彩

○新規整備区間については、前後区間の舗装との連続性を考慮し、**ライトグレー(右岸)、ダークグレー(左岸)**の**無彩色系ゴムチップ舗装**とする。

○ゴムチップ舗装は、どうしても人工的な質感となるため、ライトブラウン等のアースカラー系も含めて、色味の入った素材は不自然な雰囲気になりやすいことから、**彩度の高いものは採用しない**よう注意する。



■ダークグレー系ゴムチップ舗装(左岸)



■ライトグレー系ゴムチップ舗装(右岸)



■ブラウン系はかなり赤く見える。彩度の高いものは採用しない。

##### ■縁石等への配慮

○舗装端部は、直線的な印象を強める縁石は設置せず、植栽と馴染むように仕上げる。  
(※木製やアルミ製の舗装止め板を使用する。)



##### ■更新時打継目への配慮

○橋梁に挟まれた一連の見通し区間は、連続して更新工事を行うなど、ツギハギ状の打ち継ぎ目が不容易に生じないように十分に注意する。



■打継目は縁石でしっかり縁を切ったほうが良い

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ③ 休憩・利便施設(ベンチ・四阿・トイレ等)

##### ■ベンチ(タイプ)

- ベンチ等のファニチャー類のデザインは、やすらぎ堤の開放的な眺めを確保することを重視し、視線を遮りにくい「平ベンチタイプ」を基本とする。
- 座板は地場産木材または耐久性を考慮した合成木材とする。



■「平ベンチ」の事例  
背付きベンチに比べ視線を遮りにくい



■既設の平ベンチ(左岸)  
通路より川側に設置する場合も風景の開放感を保全できる。

##### ■四阿(タイプ・色彩)

- シンプルで控え目な佇まいのデザインとすることを基本的な方針とする。
- 代表例として、既設基数が最も多い「方形屋根タイプ」(右写真)が挙げられる。
  - ◆方形屋根・四柱・袖壁なし
  - ◆支柱 ⇒ 耐久性にも配慮し、無彩色の擬石コンクリート
  - ◆屋根 ⇒ 支柱の無彩色に合わせたダークグレー(コロニアル葺)



■四阿タイプの代表事例(右岸6.2km付近)  
新規及び更新整備では、事例のようなシンプルで控え目なデザインに統一する。

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ■トイレ(タイプ・色彩)

- 四阿と同様に、**シンプルで控え目な佇まいのデザイン**とすることを基本的な方針とする。
- また防犯性の確保や、災害時の緊急利用への対応も考慮する。
- 代表例として、左右岸に設置実績のある「フラット屋根ユニットタイプ」(右写真)が挙げられる。
  - ◆屋根 ⇒採光付き陸屋根
  - ◆外壁 ⇒自然石タイル調 ダークグレー
  - ◆ユニット ⇒男女洋式×各1穴 多目的×1穴



■ユニット式トイレの代表事例  
新規及び更新整備では、事例のようなシンプルで控え目なデザインに統一する。

#### ■トイレ(修景植栽等)

- トイレの周囲については、死角を生じさせない等、防犯上の配慮を十分に行ったうえで、足元への**遮蔽植栽の設置などにより修景対策を行う**ものとする。



■中高木による修景  
過剰に薄暗く閉鎖的にならない程度に遮蔽植栽を行う。



■草花による修景  
四季の草花により、親しみやすい景観を演出。<sup>16</sup>

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ④ 案内サイン・看板 等

##### ■デザインの基本方針

○サイン施設については、「新潟市都市サインマニュアル」に準拠しつつ、開放的で自然的なやすらぎ堤の印象と調和したデザインで統一する。

##### ■サインシステム

○具体的なサイン種別構成、整備位置等については、周辺地域とのアクセス、利用方法、案内対象施設等の整理を行い、掲載内容、配置箇所、設置方法、設置箇所等をまとめた「やすらぎ堤サインシステム」の策定を目指し、統一的な考え方で設置を行う必要がある。

##### ■個別サインデザイン

○やすらぎ堤におけるサインシステムの考え方を整理した上で、「新潟市都市サインマニュアル」のデザインに統一する(本体仕様・標記基準を含む)。



設置主体によりバラバラなデザインを計画的に統一

##### ●案内サイン・説明サイン

広がりのある河川空間の中で、  
目立ちすぎないように小型化を図る



W=100cm  
H=220cm



W=54cm  
H=170cm

##### ●誘導サイン



W=175cm  
H=265cm

##### ●規制サイン



W= 40cm  
H=120cm

##### ●距離標サイン



W= 15cm  
H=100cm

■新潟市都市サインマニュアルを踏まえた「やすらぎ堤サインシステム」基本デザインの提案

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ■注意喚起サインについて

○管理主体によって不揃いとなりやすい注意喚起の看板等は、**統一したデザインのピクトグラム**により、統一性を持たせつつシンプルなデザインとする。

○「新潟市都市サインマニュアル」においても、ピクトグラムのガイドラインが示されているが、**河川内では特有の注意喚起が必要**となることから、先行事例である「**川の標識の管理と整備に関するガイドライン**」(九州地方整備局)に**準拠**することを基本方針とする。

○なお躯体デザインについては、「新潟市都市サインマニュアル」との整合にも配慮する。



#### ■禁止



立入禁止を示す場合に適用



バイク等の走行禁止を示す場合に適用



水遊びや遊泳禁止を示す場合に適用



ゴミ焼却等の禁止を示す場合に適用  
(周囲への騒音の恐れ)



ゴミ焼却等の禁止を示す場合に適用  
(煙の発生による迷惑行為)



ゴルフ練習の禁止を示す場合に適用



駐車禁止を示す場合に適用  
(増水による浸水の恐れ)



駐車禁止を示す場合に適用



車両侵入禁止を示す場合に適用



廃棄物の不法投棄の禁止を示す場合に適用



ペットの糞の放置禁止を示す場合に適用

#### ■注意喚起



川への転落注意を促す場合に適用



階段転落注意を促す場合に適用



飛び石を通る時に注意を促す場合に適用



川への転落注意を促す場合に適用  
(水深が深い場合など)



ダム操作に伴う増水注意を促す場合に適用



駐車時の増水注意を促す場合に適用



急な増水への注意を促す場合に適用。  
(川から早く上がるよう促す)



急な増水への注意を促す場合に適用  
(中州に取り残される恐れ)



車両通行の注意を促す場合に適用



車両通行の注意を促す場合に適用



水上バイクの走行注意を促す場合に適用  
(騒音による迷惑行為)



夜間の騒音注意を促す場合に適用

#### ■啓発



河川美化やゴミの持ち帰りを呼びかける場合に適用



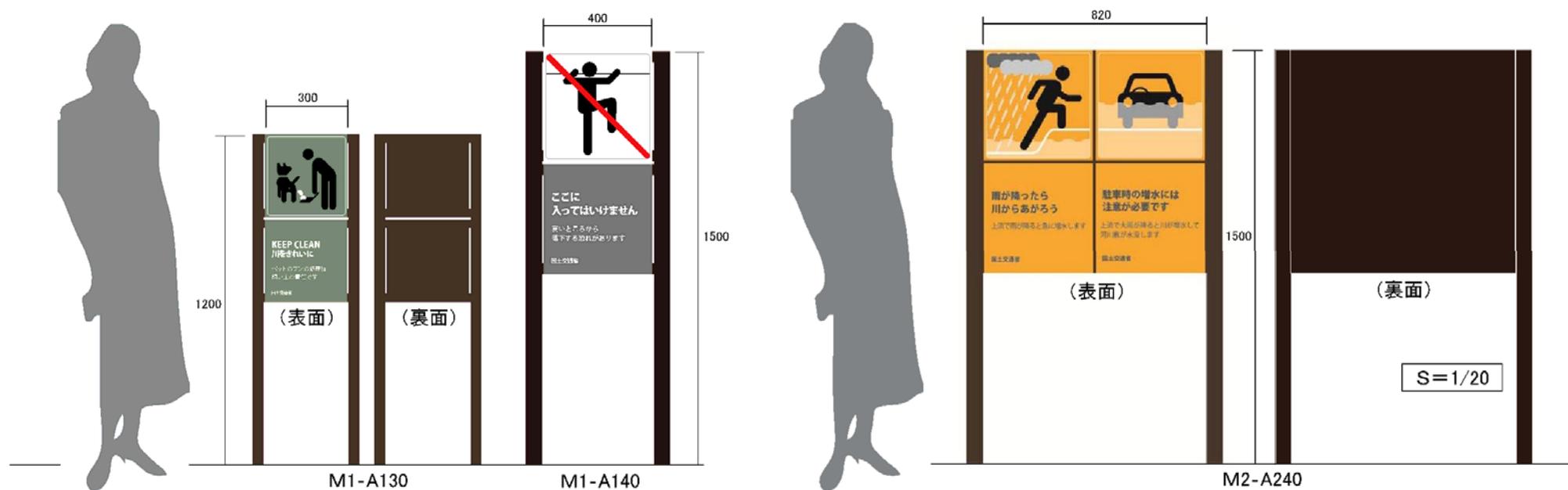
飼い主のマナーアップを呼びかける場合に適用

■管理者や目的に応じて異なる看板類。仮設物のため、安易なデザインになり易く、景観的に好ましくない。

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ■ 注意喚起・本体デザイン

- 本体は、「新潟市都市サインマニュアル」とも整合する**スチールまたはSUSの2脚タイプ**とする。
- 塗色は同上**マニュアルの標準色であるダークグレー**(DIC G-269)とする。両面表示としない場合は裏面も柱と同一色で塗装する。



### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ⑤ 照明施設

##### ■ 照明配置の基本方針

○ 区間全体について、**最低限の安全を確保する照明配置**を基本とする。各所の利用形態を踏まえて**演出照明等の設置**を検討する。

##### ■ 照明柱・灯具のデザイン

○ 整備済区間では萬代橋の照明デザインをモチーフとしたものが複数箇所に設置されているが、萬代橋で復元された本物の価値を薄めてしまうことも懸念される。灯具のデザインは、地域の名物等を具象化した**自己主張の強いデザインは避け、シンプルで目障りにならないもの**を採用する。

##### ■ 照明柱・灯具の色彩

○ 施設の存在を主張しない低明度、**無彩色の「ダークグレー」**を基本とする。  
○ 光源はLEDを基本とし、全体の**照明デザインコンセプトに沿って統一的な光源色**を採用する。



■ 整備済区間の左岸に設置されている萬代橋の照明を模した灯具。安易にモチーフを多用すると、本物の存在価値を薄めてしまうことが懸念される。



■ オーソドックスな既設の照明柱(右岸)  
新規整備および更新においては、この色彩に統一する

### 3. 各施設の整備に係るデザインの基本方針

#### ⑥ その他（自動販売機 等）

- 自動販売機、仮設売店等、緑地内に設置される可能性がある施設については、**形状、色彩ともに行ける限り装飾性を抑えること**を基本とする。
- 特に自動販売機は、「**ロゴ、広告等の塗装は行わない**」、「**周辺に溶け込みやすい暗色系の塗装とする**」等の景観的な配慮を行う。この他、持ち込みゴミの投棄が生じやすい自販機脇ゴミ箱の設置には十分注意を払う必要がある。



■ 飲料ブランドの塗装が目立ちやすい



■ 本体は白色系が多く目立ちやすい



■ 広告等の高彩度塗装を控え目にする。



■ 周辺景観に溶け込みやすい暗色系塗装とする。